友史会２０２５年４月例会

「南山城・旧山城町の遺跡を歩く」

２０２５年４月２０日(日)
案内：吉村和昭　橿考研学芸課副主任
行程：JR 上駒駅→山城郷土資料館→高麗寺瓦窯跡・高麗寺跡→高井手瓦窯跡
→上駒天竺堂一号墳(移築石室)→椿井御霊山古墳→椿井天井山古墳→椿井大塚山古墳
→北谷横穴墓群→(遠望:稲荷山古墳、平尾城山古墳)→湧出宮→JR 棚倉駅　解散

【例会だより】
今日は久しぶりの友史会の史跡見学会だ。集合はＪＲ上狛駅午前１０時。昨日の枚方は夏日で暑くて大変だったが今日は曇りがちだが直射日光がない分、史跡探訪には快適な天候だ。駅からしばらく歩くと高麗寺跡の広場についた。参加者約１４０人が集合した。
最初に橿原考古学研究所の吉村先生から本日の見学コースの説明があった。この場所は木津川を見下ろす段丘面に位置し、眺望は南に鹿背山・平城山を臨み、右方向に生駒山脈がうっすら見えた。晴れた日には遠く葛城山も見えるらしい。
一番目の見学地に向かう道の両側の田んぼには、レンゲソウが満開できれいだった。山城郷土資料館への坂道のわきに大きな花崗岩の巨石が２個置いてあり、面取り、矢穴、刻印までのこっている。説明板には大阪城の残念石（製作中に放棄された石材）と書いてある。徳川時代の大阪城の築造のために製作途中で放棄されたものといえる。
資料館の入り口には城陽市の久津川車塚古墳出土の大きな組合式家形石棺の復元模型が置いてある。模型の出来が良いので説明がないと実物と間違ってしまう。資料館では学芸員より時代ごとに山城地方の代表的な遺物と遺跡の丁寧な説明があったのでわかりやすかった。特に面白かったのは、和同開珎の真ん中の穴が円ではなく四角であるのはなぜなのか？それは四角の穴の断面のバリをとるとき何十枚も重ねてヤスリ掛けをすることによって手間を省いたからという学芸員の説明だった。
次の見学は高麗寺跡で、高句麗系渡来氏族の狛氏の寺院だったとのこと。この飛鳥時代創建の寺院は発掘され、金堂・塔などの瓦積基壇が見つかりその伽藍配置があきらかになった。それは法起寺式（右に塔、左に金堂）だ。特に気付いたのは塔心礎の南側側面に仏舎利を納める孔をうがっていることだ。この絶景を臨む台地上に建てられた寺院を支えた狛氏の人々はどんな景色を見ていたのであろうか。また人々の住んでいた集落はどこにあったのだろうか思いをはせた。
高井手瓦窯跡は現在道路になっていて説明板もないためどこに、どのようにあったのか今はさっぱりわからない。急な坂を上るとすぐに上狛天竺堂１号墳（前方後円墳２７ｍ）についた。移築した横穴式石室の一番下の石材だけが残っていた。階段を下りる途中にたくさんの野草のギシギシが細長い葉を伸ばし群生していた。幼い時にこの草を刻んでウサギに餌としてあげた遠い昔の記憶が突然よみがえった。この野草はスイバ同様薬草にもなるそうだ。
椿井の集落は狭い道路の両側に古い町並みが良い心地で並んでいた。椿井大塚山古墳（１７５ｍ）は主軸を東西にとり前方部と後円部はＪＲ奈良線により分断されている。古墳には主軸方向南側から進入した。途中ＪＲ線の下をくぐるがその壁面のレンガ積みは長手面、小口面を交互に積んだ明治の懐かしいレンガ積みだ。イギリス積みという。民家を抜け急な坂道を上ると大きな後円部が姿を現した。古墳の頂上までは階段が新設され安全にのぼれた。後円部斜面はきれいに整備され筍がそこかしこにでていた。山城地方は筍の名産地なのだ。墳頂からの眺めは木津川の流れが作った村々、田畑、遠くの丘陵など最高の眺めであった。
案内いただいた吉村先生並びに友史会の役員の皆様本当にありがとうございました。お陰で、弥生、古墳、飛鳥、奈良時代を楽しめました。

大阪府枚方市　　井上憲一

【記録写真】

高麗寺跡で吉村先生の説明を受ける

山城郷土資料館

椿井大塚山古墳

椿井大塚山古墳の線路

椿井大塚山古墳墳頂から矢田丘陵を望む